

44. 男女学童の人体比例について

お茶の水女子大	柳沢	澄子
	○伊藤	令子
	須貝	容子
	川崎	恵美
	磯部	朋子

1. 私共は1959~60年にわたり、東京都山の手某小学校の男女学童について身体計測を行ない、被服構成学の立場から、主として人体比例の性差並びに年令的变化を把握しようとした。

2. 調査対象は1~6学年の男女学童 600人である。計測値・計算値11項目（身長・指極・全頭高・肩峰高・

胴高・膝高・上肢長・下肢長・肩峰幅・最大股幅・足長)並びに身長に対する示数10項目について集計整理を行ない、性別・年令別にその差異を検討した。

3. 主な成果は次のようである。

示数値については、加令にしたがい僅かながら漸減の傾向を示す項目(比頭高・比足長)漸増の傾向を示す項目(比指極・比胴高・比下肢長・比上肢長・頭身示数)並びに加令にしたがい顕著な変化を示さない項目(比膝高・比肩幅・比最大股幅)の3群に分類することが出来る。また比胴高・比最大股幅・頭身示数の3項目については、全学年を通じて女子が男子を凌駕する。その他の項目では一般に男子が女子より優位であるが、11才に達するとむしろ女子が男子を凌駕する傾向がみられる。